

※「かだる」という言葉は、岩手県の方言で「参加する」、「集う」、「加わる」などを意味します。

女性の視点・力を地域づくりに生かす 横田恵子さん（金ヶ崎町）72歳

輝
シ
ニア

金ヶ崎町女性百人会の会長を務める横田恵子さん。女性が抱える問題への相談支援を行うほか、女性の声を地域社会に届けようと、女性の力を活かした地域づくりに取り組んでいます。今年、災害時に見落とされがちだった女性や高齢者らに配慮した防災パンフレットを発行しました。



「女性の視点からの防災パンフレット」
を手にする横田恵子さん

百人会では、被災地支援やセミナー研修などを行うほか、女性や高齢者らが災害時に直面する課題や対策をまとめた「女性の視点からの防災パンフレット」を、今年発行しました。同会では毎年、沿岸被災地に出向き、学習会や現地の住民との交流等を重ねてきました。そこで浮上した、災害時に女性や高齢者が置き去りにされる問題点に注目。「藤枝滯子基金」から55万円の助成を受け防災パンフレットの作成に至りました。防災パンフレットはA4版、カラー10

ページで、「緊急時の家族の避難場所・経路」「女性用持ち出しリスト」「我が家の緊急・救急カルテ」の他、災害伝言ダイヤル、避難所生活についてなど、災害・緊急時の対応策が、女性の細やかな視点を活かしまとめられています。防災パンフレットは6千部印刷し、金ヶ崎町内の全戸に配布。日頃からの備えを呼びかけています。

このほか横田さんは、世界遺産平泉のガイド、町男女共同参画推

進相談員、町消費生活相談員などに携わっており、昨年、いわて男女共同参画社会づくり功労者表彰を受賞。「1カ月のスケジュールはすべて埋まっている」というほどの多忙ぶり。それでも、「休みはないけれど、今の生活は本当に充実しています」と話しています。

旧沢内村の健康管理課で栄養指導に従事し、高校の講師も勤めた後、昭和60年からは県福祉総合相談センターで婦人相談員を20年勤めました。「栄養と睡眠をしっかりとること」が健康管理の秘訣。「そのおかげで相談業務が続けられた」とし、「出会う人の笑顔に癒され、それが次への糧となっています。人が好きだから今のような活動ができるのだと思います」と話しています。



金ヶ崎町女性百人会の会員の皆さん

政府は 5 月に、平成 28 年版高齢社会白書を公表しました。平成 27（2015）年 10 月 1 日現在、わが国の 65 歳以上の高齢者人口は 3,392 万人、総人口に占める高齢化率は 26.7%（前年 26.0%）と、65 歳以上の高齢者が 4 人に 1 人を超えています。また、本県の高齢者人口は、38.7 万人で、高齢化率は 30.5%（前年 29.6%）となっています（岩手県人口移動年報による）。

今年の白書では、5 年ごとに日本、アメリカ、ドイツ、スウェーデンの 4 か国の 60 歳以上の男女を対象に実施している「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査（平成 27 年）」の調査結果が掲載されていますので紹介します。

高齢者の意識の国際比較について

日本の高齢者の約 9 割が、他の対象国と同様、現在の生活に満足していると回答しています。一方で日本は、老後の備えについて現在の資産や貯蓄を不安と考える割合や家族以外の人で相談し合ったり、世話をし合ったりする親しい友人がいない割合が、他の国よりも多いという結果も出ています。このため白書では、老後を見据えて若い時期から経済的な準備を始めるとともに、高齢者が地域社会から孤立しないよう、社会参加を促す取り組みや支援が今後より求められる、と提言しています。

（老後の経済的な暮らし）

・ 50 代までに老後の生活に備えて特に行ったことについて、「特に何もしていない」高齢者の割合は、日本が 42.7% と最も多く、他の対象国は 20% 台である。

・ 現在の貯蓄や資産が老後の備えとして、「足りない」と考える高齢者の割合は、日本では 57.0% で最も多く、他の対象国は 20% 前後である。

（就労）

・ 今後、収入を伴う仕事をしたいかについて、全ての対象国で高齢者の過半数が「仕事をしたくない（辞めたい）」と回答。一方、「仕事をしたい（続けたい）」とする割合は、日本が 44.9% と最も多く、他の対象国は 2、3 割台である。

（知人・友人との交流）

・ 近所の人との付き合いについて、「病気の時に助け合う」とする割合は、ドイツ、アメリカの約 30% に対し、日本は 5.9% と最も少ない。

・ 家族以外の人で相談し合ったり、世話をし合ったりする異性や同性の親しい友人がいるかについて、「いづれもない」とする割合は、日本が 25.9% と最も多く、スウェーデンは 8.9% で、残りの国は 10% 台である。

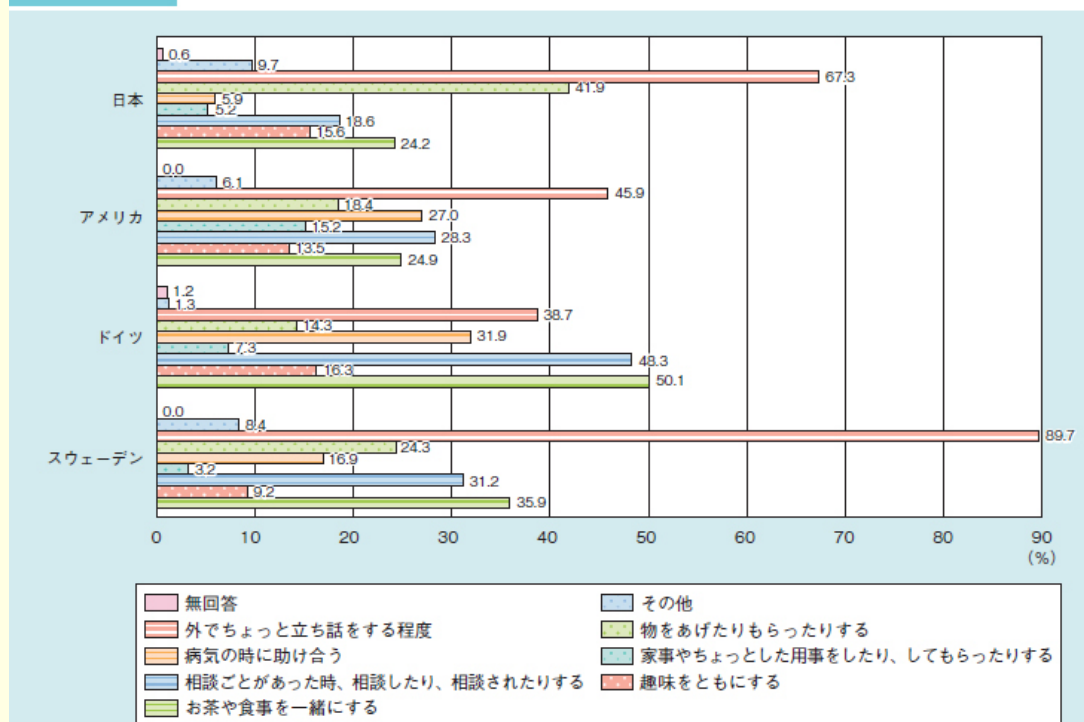
（老後生活の満足度）

・ 日々の暮らしで経済的に「困っていない」とする割合は、スウェーデンが 87.3% で最も多く、日本は 77.5% と 2 番目に多い。

・ 現在の生活に満足しているかについて、「満足している」とする割合は、日本は 88.3%、他の対象国は 9 割台と、全ての国で高い数値となっている。

・ 現在の生活に満足しているかについて、「満足している」とする割合は、日本は 88.3%、他の対象国は 9 割台と、全ての国で高い数値となっている。

図 1-3-5 近所の人との付き合い方（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成 27 年）（注）対象は 60 歳以上の男女（施設入所者は除く）

若さと健康を保つスポーツの会（滝沢市） 高橋 マツエ代表 会員 30 名

市の健康づくり事業の参加者によって平成 27 年設立。事業終了後も、地域の高齢者の健康づくりを目的に活動を継続しています。毎月 2 回、講師を招へいし高齢者向けのストレッチ体操や筋力アップ運動の開催が主な活動。参加者の高齢者は、楽しみながら、体力向上や転倒防止、健康づくりなどに取り組んでいます。今まで地域活動に参加していない高齢者にも呼び掛けたことで参加者が増え、会員数も増加しています。



みらい工房衣川（奥州市） 吉田 裕悦代表 会員 14 名

市のまちづくり人材育成講座の受講者が平成 25 年設立。地域の福祉課題の解決に向けた担い手育成のため、大学教授による塾（勉強会）を開設。毎年地区から推薦された 10 名の塾生は、全 4 回の塾で地域福祉の現状や課題を学習。ワークショップ等を通じ課題解決に取り組んでいます。会は塾生とともに、広報紙を年 4 回、地域住民に配布し、情報共有や啓発を図りながら、高齢者が安心して生活できる地域づくりに取り組んでいます。



二戸市傾聴ボランティアグループほほえみ笑・笑・笑（二戸市） 齊藤 良子代表 会員 39 名

悩みや不安を抱える人への傾聴活動を行い、誰もが安心して生活し、支え合う地域をつくることを目的に平成 19 年に結成。公共施設に相談コーナー「おしゃべりどころ」（月 2 回）や「よってがんせ」（月 3 回）を設け、相談対応を行う他、検診会場でも傾聴活動を行っています。また、会員のスキル向上のために研修会の開催、他団体等との情報交換や連携にも努めています。年間の活動回数は 60 回超。市民への呼び掛けや地道な活動により相談者が増加しています。



一関市シニアパソコン同好会（一関市） 山下 岩男代表 会員 8 名

一関市シニア活動プラザのパソコン学習会の参加者により平成 27 年に設立。高齢者がパソコン技術の知識が不足しないよう共に学びながら、高齢者のデジタル難民解消に努めることで、地域の活性化に貢献しようと活動しています。月 1 回の定例会では、会員が専門講師から技術を学び、そこで得た知識を、月 2 回の支援学習会でパソコンに不慣れな高齢者に教えています。



湯沢地域まるごと健康づくりの会（盛岡市） 遠藤 寿美子代表 会員 9 名

地域の高齢者が、いつまでも元気で暮らし、互いに支え合いながら生活できる地域を目指し、平成 27 年設立。減塩調理等による食事改善、体力づくりや医師の講話による病気予防など、毎月 1 回講座を開催し、健康づくりについて学び、理解を深めています。また、親子クリスマスッキングを開催するなど、各世代が交流できる場もつくっています。地域内の全戸へチラシで周知し、回を重ねるごとに高齢者の参加が増えています。



陸前高田市の片地家花壇の会（村上イト子会長、^{かたちけ}会員 10 名）は、震災後、嵩上げ造成によって埋め立てられる花壇の、新花壇に移植するまでの維持管理を行うとともに、被災住民、仮設住宅の住民および一般住民が花壇作業を通じて住民相互の交流を図ることを目的として、平成 27 年に結成されました。

震災によって大きく被災した同市森の前地区に、住民らが交流の場として花壇づくりを始めたことが活動のきっかけでした。その後、被災地を訪れた北



「片地家花壇」で花壇整備をする会員の皆さん

陸学院大学（金沢市）、岩手大学（盛岡市）などの学生ボランティアが苗の保存や維持活動に継続的に協力し、活動の輪が広がっていきました。この活動は嵩上げ工事によって中断され、花壇は行き場を失いかけていましたが、県内外の支援者が根株や種子の栽培を引き継ぎ、同会が一時的な移植場所として同市矢作町片地家に「片地家花壇」をつくり保存活動が始まりました。この活動には九州や海外からも学生がボランティアで支援に訪れるなど、復興に向けた花壇整備活動は交流の輪を広げています。

事務局の熊谷薫さんは「支援をしてくださる皆さんの思いがこの花壇に込められており、その気持ちを繋ぐつもりで活動しています。今後、この花壇は災害公営住宅周辺等に移動する予定で、住民の新たな交流場所としていきたい」と話しています。

（この事業の一部に、公益財団法人いきいき岩手支援財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。）

アイーナ 10 周年記念イベント「徳じいのバッテリー村移動教室」開催

県民の活動・交流の拠点として岩手県が整備したアイーナは、今年、開館 10 周年を迎え、当センターは 5 月 8 日（日）、記念イベントを県青少年活動交流センターと共催。久慈市で山村文化の継承活動を行っている、バッテリー村^{きとうご}の木藤古徳一郎さん（85）による、「徳じいのバッテリー村移動教室」を行いました。

当日は、約 200 名が来場。会場では、木藤古さん手作りのコマを使用し、「コマ回し遊び、コマ回し大会」のコーナーを設置。初めてコマに触れる人には、木藤古さんがコマの回し方を直接指導。上手に回すまでしばらく四苦八苦しながらも、きれいに高速で回転できると場内からは拍車が沸き起こるなど、老若男女が楽しく昔遊びを堪能しました。

このほか会場では、木の皮を使った「キハダ染物体験」やバッテリー村で作成した編み物、わら細工などを展示。「ほうき作りの実演コーナー」では、経験を積んだほうき職人の技に多くの人が魅了されていました。



コマ回し大会の様子



ほうき作り実演コーナーの様子

岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターは、特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会が岩手県から受託して運営しています。

〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通 2-4-16 やまのえんビル 1 階 tel 019-604-8862 URL <http://www.hfk.or.jp/>